

複音の音見つけスクール Vol.7 「ムーン・リヴァー」質疑応答まとめ

Q1 :

複音の音見つけスクールの質問ですが、なにぶんにも編曲は初挑戦で、楽譜ソフトのと悪戦苦闘(笑)。残念ながら、質問できるほど理解できていなくて質問できなくて・・。

質問になるのかわからないのですが、今回、編曲を何とか仕上げられたのは、元の楽譜に素敵なコードが付けてあったおかげなのですが、自分だったら思い浮かばない素敵なコードがついている所がたくさんあって、どうしたらあんな素敵なコードがつけられるのだろうと、ただただ、ため息でした。私につけられるのは、せいぜいその音階のドレミファに合わせたコードで、それも、I IV V7を中心になってしまいます。何かコツとかあるのでしょうか?

A1 :

「素敵なコード」などと言う「素敵なお言葉」をお届けいただくと、実は穴に入りたくなるのが私なのです。何を隠そう、実は対旋律を書いてから、コードを書いているのが私なんです。ポピュラーの世界ではコードで音楽を作ると言う雰囲気を私自身は感じているのですが、な~んかそれは違うな~と言う感覚を持っていて。私自身が作曲する時にしている作業が、正に音見つけなんです。でも、そこには勿論、かつて嫌と言うほど和声学を学んだ事が根底にあるからかもしれません。そして思う事なんですが、質問者さんのおっしゃる3種類のコードが中心になってしまふと言う現実は、決して間違いではありませんし、出発点にはきちんと立っていらっしゃると言う事です。そこを拠点にこれから先に進んで行って欲しいのですが、ではどうしたら良いのか?と言うと、和声学を学びなさいと言ってしまえば一番早いのですが、それはそれでかなり面倒な事だと思います。ではどうすれば良いのか?との話になるのですが、まずは一番身近な今回の皆さん的作品、そして私の例を何度も出来れば鍵盤楽器で音にして、感覚的に慣れていく事が、次の音見つけに繋がるのではと思います。勿論音を出しながら、そこに書かれているコードを見ながらですが・・・。作品自体はデュオの勉強ですので、音は二つしか鳴っていません。書かれたコードを和音で出しながら進むと、こう言う流れのところに、このようなコードをつけるんだ・・・と言う事が、だんだんと感覚的に感じられていくのではと思います。もしも、和声学を学んでみようと思う気力がお有りでしたら、それはそれで速や道かもしませんが、理論づくしでいくのはあまりお勧めいたしません。何故って、根底に和声学が流れている状態に持っていくには、それなりの年月を要しますので・・・。それより、恥ずかしがらず大きな顔をして、真似っこから入るのも良い事と私は思っています。そして、音見つけに専念してくださる事を私は望んでいます。

Q2 :

I の和音のところで、セカンドがドを吹くと重くなってしまうと複数のコメントありましたが、そのドを四分音符ではなくて、八分音符にしたら少しは印象が軽くなりそうですが、如何でしょうか？

A 2 : 主和音の根音、つまりドの音に拘ったのには、特にテーマの方に主和音のソの音がきている時が多かったような記憶があります。ドとソが響いた時の空虚感（私だけが感じる事だけかもしれません）が、私にはたまらなく、ムーンリバーでは響かせて欲しく無いという気持ちがすごく強かったように思います。それとドを吹くことによって、音楽が終わってしまう感覚が音楽の流れを止めてしまうのが勿体無いと思った事です。どのくらいの方がいらっしゃったかは覚えていませんが、コードの根音、つまり一番下の音を常に鳴らさなくてはいけないと思っていらっしゃる方もいたような記憶があります。決してそんなことはなく、メロディとの調和で音見つけはして欲しいのです。質問者さんの四分音符でなく八分音符にしたら？のご意見、良いと思います。その時、拍の頭を八分休符にすると軽くなって良いかなという場合もあるかと思います。

Q 3 :

先生がムーンリヴァーに持っているイメージがおありのようですが、それは、具体的にはどういうものですか？なんか柔らかいものようですが。。。因みに私は、まず第一に Andy Williams の晴れやかで朗々とした歌声。その次が対照的なオードリーの正直下手だけど、魅惑に語る歌。。。です。

A 3 :

ムーンリバーに関して、アンディウィリアムズの歌で多分この曲を知ったのだと思います。昔からニュースと天気予報くらいしかテレビを見ないので、家族がアンディウィリアムズショーを見ていたのを、何気に聴いたのがムーンリバーだったのです。私がその時感じたすっきりした透明感、芯の通った柔らかさを感じた事ははっきり覚えているんです。その時のイメージが貼り付いているのでしょうか。

C1:

編曲講座を通信で実施していただき、ありがとうございました。

音楽通論を読んだだけで編曲講座に出たこともない私には、編曲をどのように勉強していくのか、全くわかりませんでした。

今回、多くの人の作品と、これに対する上先生のアドバイスが得られたので、これから少しづつ勉強していきたいと思っています。

お忙しいなか、沢山のアドバイスをくださった上先生、そして役員の皆様、ありがとうございました。

なお、地方在住の私には通信講座はとてもうれしいです。

通信で実施される研修には、できるだけ参加していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

C2:

複音の音見つけスクール通信講座どうもありがとうございました。
すべて印刷してファイリングして、一通り目を通してみました。
分厚くなりましたよ。90枚。
上先生の暖かいコメントと、素敵なお直し、感謝しかありません。
自分の分だけでなく、お直し前と後の音を出してみましたが、「ほお～」
とか「はあ～なるほど～」と感心しながら楽しませていただきました。

これから、いろいろ、編曲をしていくうえで、どうしようと思ったときに、
この皆様の楽譜と、上先生のお直しがとても参考になりそうで、すごいものを
頂いてしまったなと思っています。財産です。

そして、感染症対策のためとはいっても、通信講座をしていただき、私のような
地方のものにも気軽に参加できるように工夫していただいたことを心から
感謝します。

次も、通信講座でも実施してくださること。
参加する気満々なので、また、どうぞよろしくお願ひいたします。

C3:

首都圏外の者がプロ作曲家の指導を受けられる機会を作っていただき感謝して
おります。

C4:

①今回、転調へのつなぎ方が、よくわかりませんでした。
先生のコメントで「次の調の属和音をつなぎの最後に示してあげると、次の調
の気分になれる」と教えてくださったので、次回に意識してやってみたいと思
います。
②メロディの流れを止めないように気を付けること、曲の柔らかさを大切に音
選びをすることが大切と教えて頂きました。
③皆さんへのコメントを自分のことのように何回も読み直して、次回に役立て
たいと思います。